

令和 6 年度

事業報告

社会福祉法人 松豊会

令和6年度 社会福祉法人松豊会 事業報告

1. 基本理念・運営方針

松豊会の法人理念「やすらぎのある生活、その人がその人らしく、地域と共に」を支援の方向性として共有化し実践することで、福祉サービスの質の向上と、経営の透明性の確保を図る。また、社会福祉の中心的な担い手として地域社会に対する社会福祉法人の責務を果たす。

2. 中長期事業報告

(1) 法人運営の安定

利益の確保については、短期入所の稼働目標を上げ、取り組んだことにより特養全体として、空床を減らすことができ、前年度より良い形で目標稼働率を達成しました。人件費や物価の高騰もあり支出も増えましたが、事業活動収支差額は、プラスとなりました。在宅事業については、昨年度より実績が下がりました。介護保険の件数が減ったことが要因と考えます。収益性の低いサービスについては、ニーズを精査しながら運営しました。

近年、各地域で災害が頻発している状況から、災害や感染症発生時の対応の強化として、業務継続計画を策定し、研修や訓練を定期的実施しました。

今後も、事業の継続と発展のために機動性、収益性を高めていきます。また、物価高騰や人件費、施設改修、設備更新の経費を備えながら、法人が有する施設や設備、職員を活用し、社会福祉法人の責務を果たしていきます。

(2) ご利用者に対する基本姿勢

常にご利用者やご家族の立場に立って、個人の尊厳や個性に配慮したサービスが提供できるよう、ご家族に電話や手紙で定期的にご様子をお知らせしたり、カンファレンスや家族会に参加して頂き、自己決定や選択を尊重しました。また、施設サービス計画についても、ご利用者やご家族の意向を踏まえた課題分析を行い、プランを策定しました。

安全管理（虐待・身体拘束・事故リスク）への取り組みとして安全管理委員会を中心に毎月、分析や評価を行い、再発防止のために研修会を定期的実施しました。事故発生件数は前年に比べ減少しましたが、誤薬や服薬管理等の防ぐべき事故が繰り返されているため、配薬カートを導入しました。効率的な配薬と人的ミスを防ぐことで、誤配や投薬忘れを回避できるようになりましたが、ダブルチェック機能が十分に果たせない場面も見られ、ルールや手順の見直しを行っています。今後も服薬が安全な業務になるよう改善を継続していきます。

虐待については、発生事例はありませんでしたが、「虐待の芽チェックリスト」と「第3者評価」を行い、不適切ケアを改善するよう努めました。他部署による第3者評価は課題が明確化し、行動変革に結び付き有効でした。今後、個人の尊厳を守りながら、リスク管理を強化し、事故防止に努めていきます。

（3）地域社会に対する基本姿勢

地域連携委員会議の開催や自治会の会合、イベントに出来るだけ参加し、地域の福祉ニーズの把握に努めました。地域の学生（松江四中）が、自主学習する場を求めているとの情報をいただき、特養1階の会議室を学習室として開放することにしました。

地域の方と協働で行う総合避難訓練は実施できませんでしたが、引き続き自治会との防災協定書を締結し応援協力をお願いしました。施設内では、感染防止策を徹底して、火災時や土砂災害、原子力災害時の避難訓練を実施し有事に備えました。

（4）福祉人材に対する基本姿勢

福祉人材の確保は一層難しい状況で、今年度も有料人材紹介会社を活用し、2名の方（介護職）を採用しました。また、業務内容や責任に応じた雇用を検討し、シルバー派遣事業を活用し、1名の方を（環境整備）継続雇用しています。今後、さらに多様な人材や働き方を推進する必要があると考えます。

職員の定着については、賃金の改善が必要と考え、賃金規程を改定し、処遇改善加算の一部を基本給に組み入れ、一部を手当とし支給することにしました。

また、組織として目標や価値観を共有し活性化を図るため、人事考課規程や職掌等級制度規程の改定も行いました。処遇改善を勧めて、職員のモチベーションを高め、より働きがいのある職場になるよう努めていきます。

ICTの活用による職員の負担軽減については、介護ソフトや介護ロボットを活用し事務業務の効率化を図り、職員の職場環境の改善に努めました。まだ、十分に成果が出ているとは言えませんが、引き続き運用し業務の効率化だけでなく、サービスの質の向上に繋げていきたいと考えます。

（5）法令遵守等

制度や危機管理に対応するために、必要な法令の理解や改正への対応を速やかに行いました。また、全職員に対して会議や研修で周知を図り、高い倫理性と知識を持ち業務が適正に遂行されるよう努めました。

（6）法人役員会の開催（別紙：松豊会役員会実績）

（7）職員研修

職場内研修については、23回（前年22回）企画し述べ423名（前年401名）の職員が参加しました。感染予防の観点から、法人全体での集合研修は開

催しませんでした。各部署での会議やミーティングを活用し研修を実施しました。必須の研修や各部署の抱えている問題に直結した研修会を開催することで実践に繋がりました。

また、オンラインを導入し外部研修を自施設から受講するようになり、効率よく研修等に参加できるようになりスキルや知識の向上に繋がりました。

(別紙：施設内研修会実績)

(8) 苦情・要望の対応

苦情に該当する事案はありませんでしたが、定期的に苦情処理委員会を開催し、サービスに対するご利用者、ご家族の満足度や適切に利用されているか等確認しました。

今後も、ご心配やご不安を解消できるように相手の話を聞く姿勢を大事にし、ご意見やご要望を速やかに組織で解決していき、再発防止やサービスの質の向上、信頼関係の構築に繋がっていきます。

(9) 防犯・防災管理

総合避難訓練については、火災を想定した通報・避難訓練を実施し、消防署の方から評価・指導を頂きました。また、施設内でできる避難訓練（火災、土砂、原子力）、非常持ち出し訓練、緊急連絡訓練、備蓄食料品の確保等実施しました。

避難訓練では、誘導の手順の曖昧さや確認不足が見られました。繰り返し訓練を実施改善に努めます。設備については、定期的な設備点検を適切に実施し、不具合があれば速やかに修繕しました。また、職員も避難経路や危険箇所のチェックを行い安全確保に努めました。

(別紙：防災訓練実績報告)

事業継続計画（BCP）については、防火管理委員会で定期的に事業継続計画を見直しこの計画を基に研修・訓練を実施しました。

(10) 広報活動

広報誌は2回発行しました。ホームページについてはリニューアルには至らず情報発信不足でした。

(11) 事務部門

①物品等のコスト削減の提案に努め、計画的な予算執行に努めました。

②介護保険報酬請求については、法令に定められた基準に基づいて適切に請求事務を行い、収益性、信頼性の高い経営を行うよう努めました。

③職員が働きやすい環境を整えるため、介護テクノロジー定着補助金を活用し特殊浴槽（ミストシャワー浴）を導入し、介護職員の業務負担軽減を図りました。また、導入している介護ソフトを追加し、多職種が連携することでさらなる質の向上と職員の事務業務の効率化を図り業務改善に努めました。

④施設からのお知らせや緊急時の情報を携帯電話へ直接配信するシステムを

活用し、ご家族や職員へ迅速に情報を提供する環境作りに努めました。

⑤ご利用者やご家族が安心して生活が送れるように、感染対策を行いながら対面で面会が出来るように、調整、連絡を行いました。また、職員がオンライン研修や会議がスムーズに行えるよう環境整備を行いました。

⑥感染症発生時に介護職員、看護職員が迅速に対応できるように、初動対応用の物品を準備し、消耗品が不足しないように努めました。また、適正な在庫量になるように確認、調整、見直しに努めました。

⑦事務業務の効率化を目指し、積極的に事務業務の見直しに努めました。

⑧組織運営を円滑にするため、諸規定の整備し、職員への周知に努めました。

⑨適正で透明性のある財務管理に努めました。

(12) 会議・委員会の開催（別紙：会議・委員会開催実績）

法人理念の実現や業務の円滑な運営を図るため、個々の意見を聞き、他職種との連携を図り日常業務に生かすことを目的とし運営しました。

事案によっては、緊急会議を開催しタイムリーに関係者が集い協議し、速やかに対応を発信するよう努めました。

令和6年度 稼働状況実績報告書

社会福祉法人 松豊会

番号	サービス区分名	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値	前年度 平均
1	特別養護老人ホーム (本館)	稼働率	99.1%	98.8%	94.9%	92.5%	95.4%	97.8%	96.8%	94.9%	96.4%	98.3%	97.8%	97.4%	96.7%	96.0%	96.5% 4.24
		平均介護度	4.31	4.30	4.26	4.26	4.24	4.24	4.22	4.24	4.20	4.21	4.22	4.20	4.24		
2	特別養護老人ホーム (新館)	稼働率	91.9%	89.0%	95.6%	98.9%	97.7%	97.7%	99.4%	94.2%	98.2%	99.1%	96.5%	94.9%	96.1%	95.0%	96.6% 3.91
		平均介護度	4.06	4.06	4.07	4.07	4.03	4.01	4.03	3.98	3.99	3.99	4.02	4.02	4.03		
3	短期入所	稼働率	65.0%	73.4%	94.6%	81.9%	87.5%	74.6%	73.4%	87.5%	75.0%	75.4%	75.0%	75.0%	78.2%	75.0%	51.5% 3.65
		平均介護度	4.58	4.52	4.35	4.35	4.29	4.18	4.02	3.86	3.66	3.34	3.33	3.33	3.98		
4	訪問介護	訪問時間 (介護)	130.1時間	121.2時間	95.4時間	107.1時間	76.7時間	76.7時間	91.3時間	123.2時間	95.1時間	74.8時間	84.7時間	87.1時間	96.9時間		(介護) 121.9時間 (支援) 133.6時間 (障がい) 182.6時間 (介護) 5,302.9円 (支援) 5,009.9円 (障がい) 5,496.7円
		訪問時間 (支援)	121.2時間	118.3時間	99.5時間	112.7時間	113.9時間	109.0時間	117.6時間	113.6時間	112.5時間	109.1時間	104.1時間	112.3時間	112.0時間		
		訪問時間 (障がい)	198.7時間	198.3時間	189.1時間	200.9時間	181.1時間	186.1時間	214.5時間	181.6時間	189.0時間	155.6時間	176.9時間	187.2時間	188.2時間		
		訪問時間合計	449.9時間	437.8時間	383.9時間	420.7時間	371.6時間	371.7時間	423.4時間	418.4時間	396.5時間	339.4時間	365.6時間	386.6時間	397.1時間		
		1人利用時間	6.9時間	7.1時間	6.2時間	6.9時間	6.2時間	6.3時間	6.8時間	7.1時間	6.7時間	5.9時間	6.1時間	6.7時間	6.6時間		
		1人受持人数	12.3人	11.7人	11.7人	11.5人	11.3人	11.1人	11.7人	11.1人	11.1人	10.9人	11.3人	10.9人	11.4人		
		平均単価 (介護)	5,236.0円	5,214.5円	5,512.7円	5,801.7円	6,199.8円	5,632.1円	6,018.2円	5,049.3円	6,100.5円	5,827.4円	5,904.8円	5,854.6円	5,896.0円		
		平均単価 (支援)	4,826.7円	4,316.7円	5,351.6円	4,888.4円	4,835.7円	4,921.3円	4,681.5円	4,974.0円	4,895.6円	5,182.9円	5,432.0円	5,032.9円	4,945.0円		
		平均単価 (障がい)	5,560.1円	5,429.3円	5,620.7円	5,497.5円	5,611.1円	5,791.2円	6,190.8円	5,995.0円	6,026.1円	5,884.1円	5,950.0円	5,885.3円	5,786.8円		
		平均単価 (合計)	5,268.9円	5,069.2円	5,524.2円	5,411.7円	5,495.0円	5,503.4円	5,734.3円	5,439.3円	5,723.3円	5,646.3円	5,792.1円	5,630.8円	5,519.9円		
5	居宅介護支援事業所	請求件数(介護)	69件	61件	58件	61件	56件	61件	66件	65件	65件	64件	61件	65件	62.7件		介護： 71.8件 予防： 47.3件
		請求件数(予防)	53件	55件	56件	55件	57件	59件	59件	61件	58件	61件	62件	60件	58.0件		
		請求件数合計	122件	116件	114件	116件	113件	120件	125件	126件	123件	125件	123件	125件	120.7件	133件	
		1人受持人数	27.1人	25.8人	25.3人	25.8人	25.1人	26.7人	27.8人	28.0人	27.3人	27.8人	27.3人	27.8人	26.8人		
		訪問介護利用者	46.0人	46.0人	47.0人	47.0人	48.0人	45.0人	49.0人	49.0人	51.0人	48.0人	49.0人	51.0人	48.0人		
		事業所内利用者 (訪問)	13.0人	14.0人	17.0人	16.0人	16.0人	13.0人	14.0人	14.0人	14.0人	13.0人	13.0人	13.0人	14.2人		

平均年齢	男性	津田の里本館	津田の里新館
	女性	81.9歳	85.5歳
平均在所数		89.6歳	88.6歳
		1572.8日	1486.4日

令和6年度会議・委員会

委員会名	開催日
運営会議	毎月第3水曜日
施設運営委員会	毎月第4火曜日
サービス検討委員会 本館	毎週水曜日
サービス検討委員会 新館	毎週金曜日
入居判定委員会	毎月第4火曜日
安全管理委員会	毎月第4火曜日
介護員会議	毎月第4木曜日（介護技術研修等を定期的に実施）
西グループ 介護員会議	毎月第4木曜日（介護技術研修等を定期的に実施）
東グループ 介護員会議	毎月第4木曜日（介護技術研修等を定期的に実施）
ユニット（1F） 介護員会議	毎月月末（介護技術研修等を定期的に実施）
ユニット（2F道側） 介護員会議	毎月月末（介護技術研修等を定期的に実施）
ユニット（2F山側） 介護員会議	毎月月末（介護技術研修等を定期的に実施）
教育委員会	毎月第3水曜日
苦情処理委員会	毎月第3水曜日
給食委員会	毎月第4火曜日
防災管理委員会	毎月第2水曜日
労働安全衛生管理委員会	毎月第1金曜日
褥創予防対策委員会	毎月第3火曜日
感染症対策委員会	毎月第4火曜日
医療的ケア委員会 （本館）	毎月第3金曜日
医療的ケア委員会 （新館）	毎月第2月曜日

令和6年度 松豊会 施設外研修・会議

日時	研修・会議名	参加者
5/23	介護事業者のためのBCPセミナー	吉田所長
6/5	令和6年度総会・情報交換会（松江圏域老人福祉施設協議会）	菅施設長
6/22	診療報酬・介護報酬の同時改定の動向を学ぶセミナー	吉田所長
7/9	令和6年度社会福祉法人指導監査説明会・研修会	菅施設長・熱田監事
12/5	令和6年度第1回連絡会・情報交換会（松江圏域老人福祉施設協議会）	菅施設長
2/7	令和6年度公益社団法人全国老人福祉施設協議会事業継続計画（BCP）作成後における研修	菅施設長・吉田所長
3/5	令和6年度島根県老人福祉施設協議会第2回総会	吉田所長

令和6年度松豊会役員会

日時	会議名	参加者
6/12	令和6年度第1回理事会	理事5名、監事2名、事務局1名
6/27	令和6年度第1回評議員会	評議員4名、監事2名、事務局3名
12/20	令和6年度第2回理事会	吉田理事長、理事4名、監事1名、事務局1名
12/20	令和6年度第2回評議員会	評議員6名、監事1名、事務局3名
3/13	令和6年度第3回理事会	吉田理事長、理事4名、監事1名、事務局1名
3/13	令和6年度第3回評議員会	吉田理事長、評議員6名、監事1名、事務局3名

6年度 施設内研修会（実績）

開催回数	日 付	時 間	研修内容	講 師	参加人数
1	4月25日	10:00～11:00	法令遵守、職員倫理規程、マナーアップ、ハラスメント防止研修	津田の里 全職員	30名
2	5月14日	13:30～14:00	緊急時の対応①について	津田の里 全職員	20名
3	5月23・30日	10:00～11:00	感染症①（食中毒）について	津田の里 新館職員	15名
4	5月20日	19:00～20:00	移乗について	津田の里 本館職員	13名
5	5月20日	19:00～20:00	食中毒について	津田の里 本館職員	13名
6	6月15日	13:30～14:00	身体拘束廃止①について	津田の里 全職員	25名
7	6月26日	13:30～14:00	事故防止に①について	津田の里 職員	20名
8	6月19・20・29日	10:00～11:00	服薬について	津田の里 新職員	15名
9	7月14・17・28日	14:00～14:30	移乗について	津田の里 新館職員	15名
10	8月11日	19:00～20:00	口腔ケアについて	津田の里 本館職員	16名
11	8月20日	13:30～14:00	虐待防止①について	津田の里 全職員	31名
12	8月23・27・30日	14:00～14:30	防護服の着脱について	津田の里 新館職員	15名
13	9月19日	14:00～14:30	虐待防止②について	津田の里 全職員	15名
14	9月20日	14:00～14:30	防護服の着脱について	津田の里 本館職員	12名

15	10月17日	13:30～14:00	虐待防止③について	津田の里 全職員	17名
16	10月23日	13:30～14:00	事故防止②について	津田の里 全職員	19名
17	11月21日	13:30～14:00	緊急時の対応②について	津田の里 全職員	21名
18	11月25日	19:00～20:00	褥瘡について	津田の里 本館職員	16名
19	11月28日	13:30～14:00	身体拘束廃止②について	津田の里 全職員	21名
20	12月19日	13:30～14:00	感染症①について	津田の里 全職員	20名
21	2月13日	10:00～11:00	口腔ケアについて	津田の里 新館職員	15名
22	3月13日	14:00～14:30	誤嚥予防について（食事支援）	津田の里 全職員	14名
23	3月27日	13:30～14:00	看取りについて	津田の里 全職員	25名

2024年度 防災訓練実施報告

月 日	訓 練 事 項	時間	備考
2024年 4月 10日(水)	実施なし		
2024年 5月8日(水)	BCP資料作成・BCP研修	14:30～15:00	防災委員3名にて実施
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催
2024年 6月18日(火)	消火器使用訓練・機械操作説明	14:30～15:00	施設職員9名にて実施
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催
2024年 7月 10(火)	土砂災害避難訓練	14:30～15:00	土砂災害発生訓練・全職員参加
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催
2024年 8月 21日(水)	夜間想定避難・通報訓練	14:30～15:00	火災発生訓練・施設職員6名参加
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催
2024年 9月 11日(水)	BCP研修・訓練	14:30～15:30	地震災害想定 of 研修・訓練。施設職員6名参加
	防災管理委員会	15:30～16:00	防災委員3名にて委員会開催
2024年 10月 9日(水)	緊急連絡訓練 総合訓練 <消防立ち合い>	14:30～15:30	消防立会いのもと避難訓練実地・職員20名参加
	防災管理委員会	15:30～16:00	防災委員3名にて委員会開催
2024年 11月14日(木)	原子力災害訓練	14:30～15:00	外部被ばくを避ける訓練・施設職員15名参加
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催
2024年 12月12日(木)	避難経路の確認・清掃	14:30～15:30	施設内清掃・施設職員4名参加
	防災管理委員会	15:30～16:00	防災委員3名にて委員会開催
2025年 1月9日(木)	BCP研修・訓練	14:30～15:00	地震災害想定 of 研修・訓練。施設職員13名参加
	防災管理委員会	15:00～16:00	防災委員3名にて委員会開催
2025年 2月13日(木)	災害時備蓄品倉庫入れ替え	14:00～15:00	職員4名にて備蓄品確認を行う
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催
2025年 3月13日(水)	避難・誘導訓練指導	14:30～15:00	施設職員に火災時の避難誘導マニュアルを伝える
	防災管理委員会	15:00～15:30	防災委員3名にて委員会開催

令和6年度 特別養護老人ホーム津田の里本館 事業報告

1. 事業方針

法人理念に基づいた、施設サービスの質の向上に努め、定期的または必要に応じて、個別サービス計画の見直しを行い、支援を受けながら自己決定できるように、各部門及び各職種が連携を図り、「その人らしく」あり続けるための施設サービスを心がける。

2. 介護部門（本館 多床室）

（1）個別ケアの推進

改修工事のため、居室移動や共有スペースの使用に制限等あり、個別ケアは十分行えなかった。馴染みの関係づくりやグループ内での活動を増やし、信頼関係の構築とケアの質の向上に努めます。

（2）情報共有

感染流行時には、全体でミーティングを行い、感染対策の周知徹底と情報共有が図れた。平常時も、トップダウンではなく、ボトムアップ（現場職員主導）で発信や連携が図れるように、ミーティングの時間帯や形式を検討し実践していきたい。

情報共有シートについては、作成、更新は定期的に行っているが、活用まで至っていない。取り組みを継続します。

（3）心地良い環境作り

改修工事中で、騒音や匂い、居室移動等もあり、環境面では、大変ご迷惑をおかけしたが、換気や消毒については、間接業務担当職員を配置し定期的に実施することで感染予防に努めることができました。

（4）多職種協働

職員のマンパワー不足から、限られた人員で業務を行うため、時間に余裕がなく部署内での毎日のミーティングは実施できなかったが、朝礼の場を活用し部署間の情報共有を図り、ケアの変更等共通理解を図ることができました。

（5）職員教育

認知症ケアや口腔ケア、褥瘡予防等の研修を介護員会で行い資質と技術の向上に努めた。今後も、知識や技術が定着するよう取り組んでいきたい。また、法人全体で研修を定期的に行いスキルアップに努め、サービスの質の向上を目指します。

（6）ご家族との信頼関係の構築

手紙や電話、面会等で日頃の様子をお伝えし、情報共有に努めた。また、頂

いた要望等についても関係部署と連携し速やかに対応しました。

3. 看護部門

(1) 健康管理と疾病の予防

ご入居者の毎日の体温、血圧、SpO₂、脈拍の測定や意識、呼吸状態の観察を行い異常の早期発見や介護職との情報共有に努めましたが、嘱託医との連携不足から迅速な対応に繋がらなかった場面もありました。次年度は、専門的知識を分かりやすく情報提供し医師の指示のもと、療養上の指導を的確にスタッフに伝えていくよう努めます。

胸部レントゲン撮影と血液検査を行い、疾病の予防や治療に繋がりました。

(2) QOLの向上について

看護師としての専門的知識や技術の提供、症状マネジメント等が不十分で具体的なケアに結びつけることができなかった。疾患に対するケアはもちろんのこと、ご入居者が自分らしく生活していただけるために、健康状態の悪化予防や痛み、不安を軽減できるケアに努めます。

(3) 看取り

本館4名の方を施設で看取りました。(前年度 本館2名、新館5名)

医師やご家族、職員との情報共有を密に、ご入居者やご家族に寄り添ったケアに努めましたが、看取りに入るまでのアプローチやご家族への伝え方は、個々に異なり難しさを感じました。今できる最善のケアを目指し、スタッフ全員で取り組み質の高い看取りケアを目指します。

(4) 感染予防

職員やご入居者の毎日の検温はもちろんのこと、体調不良者がいないか、常に注意し観察しました。また、通年、標準予防策の徹底や防護服の着脱の研修、ゾーニング訓練等を実施し感染予防に努めました。

12月から3月にかけて、ご入居者のコロナ感染は4名、インフルエンザ感染は3名の方が罹患されました。感染者と同室や同じ生活空間で過ごされ方に感染しましたが、速やかに蔓延を防止することで、最小限に抑えることができ長期化することはありませんでした。日々行っている研修や訓練に一定の効果はあったと思います。

初動対応や感染管理(ゾーニング)など、まだ、戸惑う場面もありました。

今後も、看護師が中心となり、定期的にマニュアルの見直しや感染症が発生した場合、迅速なまん延防止策が講じられるように準備し、実践できるよう研修や訓練を重ねていきます。

(5) 職員の健康管理

職員の病気の早期発見、生活習慣病予防のため、年1回職員健診を実施。(夜

勤業務従事者は年2回)要精密検査者には受診の確認と声掛けを行い、結果は貴谷産業医が見て、「職場配置適正の有無」などを判断されました。

4. 栄養管理部門

(1) 栄養管理・経口維持への取り組み

栄養状態の悪いご入居者には、主治医の指示を仰ぎながら、医務や各部署の責任者と相談しながら食事形態、内容を変更し摂取量の安定が図れるよう努めました。また、摂取量が少ないご入居者には、十分な栄養量が摂れるよう適した栄養剤を提供しました。

認知機能や摂取嚥下機能の低下により食事の経口摂取が困難なご入居者に対して、歯科医師や看護師、介護職員等の多職種と協力し、食事の観察及び会議を行い、経口摂取が維持できるよう支援しました。

経口維持加算の対象の方は本館35名、新館10名でした。ご入居者の高齢化に伴い、加算の対象者は増えていますが、経口摂取の方の誤嚥性肺炎での入院は減少しており、適切かつ安全な食事の提供に繋がっていると考えます。

(入院者:本館2名、新館1名)

管理栄養士の体制が整ったため、12月より栄養マネジメント強化加算の算定を開始しました。栄養リスクが中・高の方だけでなく、低リスクの方も週3回以上のミールラウンドを行い、細やかに変化を把握し、問題がある場合は、早期に対応しました。

(2) 給食委員会の取り組み

ご入居者の栄養管理、検食、摂取・嚥下障害等について給食委員会で検討し、食事サービスの向上に努めました。

行事食として、ご入居者に喜んで頂ける内容や季節の食材を取り入れた食事を提供することができました。

また、イベントに合わせて、ケーキやババロア、ぜんざいなどのおやつ等の提供を行い楽しんで頂きました。生活の中で、食事が楽しみの一つとなり食事を豊かにすることができるよう取り組みました。

*令和6年度の行事食

5月～母の日(お刺身)	6月～父の日(お刺身)
7月～七夕(ソーメン)	8月～夏祭り(抹茶ババロア)
9月～敬老会	12月～クリスマス会(ケーキ)
(お刺身・紅白饅頭)	餅つき(ぜんざい)
1月～お節料理	大晦日(晦日そば)

*行事食以外にも、月に数回、麺類やちらし寿司、炊き込みご飯などご入居者に人気のメニューを取り入れることで、喫食率が向上しました。

(3) 衛生管理体制の徹底

集団給食衛生管理マニュアルに従い実施しました。また、食中毒や手洗いの資料配布や研修を行い、一人ひとりが正しい知識や技術を身に付け食中毒予防するよう努めました。

5. 機能訓練部門

(1) 個別機能訓練実施計画書を作成

施設サービス計画書に沿って、個別機能訓練実施計画書を作成し、個別機能訓練並びに生活リハビリ介護を行い、3か月ごとにご家族へ書面にてご入居者の訓練実施状況を説明し同意をいただきました。

ワイズマンシステム SP・LAIF にデータを6月・9月・12月分を提出した。今後は、情報を活用しケアの質の向上を図ります。

(2) サービス検討会への参加

サービス検討会議への参加し、ご家族へ訓練内容・実施状況・状態について説明を行いました。

サービス検討会議前に担当ケアマネジャーを中心に多職種と共に、事前カンファレンスを行い、情報共有を行いました。(訓練実施状況・他部署実施状況等)

施設への来里が難しいご家族に対しては、計画書を郵送させて頂き同意をいただきました。

(3) 個別訓練・生活リハビリの実施

個別機能訓練介入後、身体状況の一時的な改善やご入居者から満足感や安心感が得られている様子が見られました。実施にあたっては、対象者の生活スケジュールに合わせながら、課題となる生活動作を評価しつつ、生活リハビリ介入の一環として行う場面が多かった。また、身体状況に応じた訓練内容の調整、多職種への効果的な介助方法の提案や伝達を併せて行い、訓練効果が持続するようフォローを行いました。

ご入居者の身体状況や基本動作、活動の遂行状況を都度評価した上で、最適な福祉用具の選定・導入を指定業者と連携・相談しながら行いました。

(4) 集団活動・グループ活動の実施

本館ご入居者を対象に、食前の口腔・嚥下体操の継続的实施、季節行事の一環として、集団体操やレクリエーションを介護スタッフと協働で不定期に実施しました。

経管栄養対象者や昼食前の体操に参加が難しい方を中心に、グループ活動を企画、実施しました。

(5) 短期入所サービスのご利用者への個別機能訓練の実施

基本移動動作レベルの確認、評価を行い必要に応じて環境設定や動作介助のポイントを生活相談員や介護員に提案し、生活動作が安全に行えるよう支援しました。また、サービス担当者会議に参加し、身体機能・機能訓練的視点から見たご利用者の情報提供や共有を行いました。

対象者の状態評価を行った上で、必要となる動作や課題を分析し、居宅ケアマネジャーと情報共有しながら、福祉機器のレンタル依頼や調整を行いました。

(6) 介護スタッフを対象に安全意識・介護技術の向上を目的に研修会を実施

基本動作や移乗動作の介助について（福祉用具の活用や介助方法や不適切介助等）を自身で体験してもらいながら実施した。また、業務に支障がないように短時間でも理解が得やすいようポイントを絞り伝達しました。

今後は、研修が終了したスタッフがファシリテーターを担い、理解を深める機会や周囲への伝達を行っていく。また、事例検討会等で対応方法の検討や意見交換を行い安全意識の向上に努めます。

(7) 介護ロボット機器の導入

福祉用具業者と連携しスタンディングリフト「Hug」・移乗サポートロボット「ROBOHELPER SUSUKE」をデモ機を用意し体験した。リフト導入によって、現場の介護負担やサービス品質の向上に繋げられる要素、今後のケアの方向性については共有できました。しかし、実際の環境や対象者の状況、機器の取り扱い方法の理解や習熟度など円滑な導入を目指すには多くの課題を残しました。引き続き機器の選定・精査を行いながら、まずは、機能訓練・生活リハビリに取り入れる形で取り組んでいます。また、見守りシステムの利用など負担軽減に繋がるアイテム情報の更新にも努めました。

6. 生活相談部門

生活の場であることを基本に、個々の心のケアに重点を置き、生活支援業務や相談業務を遂行すると同時に、地域と共にある福祉の拠点となるための地域貢献活動を行いました。

(1) 地域貢献事業

- ・地域連携委員会を開催し、地域の課題を把握し法人としてできることを検討し、本館1階の会議室を会合（自治会、地域の方、津田地区連携委員会）や、学習室（松江第四中学校）として開放し活用していただきました。

- ・明神さわやか会へ定期的に参加し地域の方と顔の見える関係の構築に努めました。

- ・52名のボランティア様に、洗濯物配りやウエス切り、クラブ活動、コーラス等でご協力いただきました。

- ・介護基礎的事業、まめなかポイント事業、社協を通してボランティア（一般の方や学生）受け入れなど多様化する福祉ニーズにも取り組みました。

- ・地域の方と協働で、福祉防災マップの見直しを行い有事に備えました。

（２）家族会の取り組み

- ・本館（多床室）、新館（ユニット型個室）それぞれで家族会を開催し、看取りケアについてお伝えしました。食事が口から食べられなくなった時、どうするのか。具体的な経過や胃瘻造設についてもご説明しました。

実際にイメージしやすいように、使用する栄養剤や物品等も見ていただきました。終末期をどのように過ごすのかを、ご本人と一緒に考えていただきたいと思いますと思い実施しました。

（３）入居判定委員会

- ・要介護者のニーズや状態像に合わせて、受入れについて検討しました。また、空き状況にあわせて、居宅支援事業所や医療機関に発信し情報共有しました。

- ・短期入所事業と連携し、ロングショートの確保と入居への円滑な受け入れに努めました。

- ・医療ニーズの高い要介護者については、嘱託医や関係医療機関と連携し必要に応じた医療が継続できるよう調整しました。

（４）広報活動

- ・津田の里だよりを定期的に発行しご家族や地域の方に情報発信しました。

（５）相談援助

- ・日々の生活やカンファレンス等で、ご入居者のご意向を汲み取り、ご家族や関係部署、関係機関と連携し課題の解決に取り組み安心感を確保する。

- ・ご入居者の権利を守り社会参加の機会を確保するため、不在者投票を支援しました。

（６）成年後見制度・オンブズマン制度の取り組み

- ・身元引受人不在のご入居者やご家族の希望により、成年後見制度の活用を支援し、成年後見人との連携に努めました。

- ・オンブズマン制度の活用事例はありませんでした。

（７）安全管理への取り組み

- ・毎月の安全管理委員会で、虐待防止、身体拘束廃止、事故・ヒヤリハット事例を検討・分析し、再発防止へ取り組みました。

- ・虐待事例の発生はありませんでしたが、不適切なケアを改善するために各部署で「虐待の芽チェックリスト」を活用し、ケアの見直しを行い虐待予防に取り組みました。

- ・身体拘束事例の発生はありませんでした。

- ・事故発生時は、緊急で委員会を招集し、原因分析や対応を協議しました。事

故件数は14件（前年対比-10）、行政機関への報告は2件（-3）でした。保険対応は10件（+1）でした。（資料：別紙事故集計結果）

- ・ヒヤリハット件数は129件（-6）と減少しました。（資料：別紙ヒヤリハット・事故集計）

- ・ご入居者の重度化に伴い、事故に直結しやすいことも要因と考えますが、介助中の事故や誤薬・服薬管理等の防ぐべき事故も繰り返されています。

多角的な原因分析と対策の迅速な情報共有と強化が、必要と考えます。

- ・什器の破損（ベット・リモコン）も増えており、ケアの手順の遵守等への取り組みも必要で、取り扱い等の研修も実施しました。

- ・虐待・身体拘束・事故防止・それぞれ各部署で相互学習という形で実践に繋がる研修になるよう企画、実践しました。

（8）環境整備

- ・ご入居者に季節感や心地良さを感じて頂けるよう、ご入居者と一緒に馴染みの農作物や季節の花を育て観賞し食べていただきました。

令和6年度 短期入所・介護予防短期入所生活介護 事業報告

ご利用者の心身機能の改善、環境調整等を通じて、自立支援と生活の質の向上に資する施設ケア計画書を作成し、サービスを提供しました。また、状況に応じて再アセスメントしながら、ご利用者の状態と意向を踏まえ見直しを行いました。

ご利用者やご家族のニーズを把握と満足度を調査するためアンケート調査を実施しました。また、家族会へも参加して頂きご意向を伺う機会を設けました。

今後も、継続しより質の高い支援が提供できるよう取り組んでいきます。

ロングショートを含めショートステイの受け入れに努め、目標稼働率を達成することができました。各事業所や医療機関との連携を図ると共に、多様化するニーズに対して個別に対応していきたいと考えます。

令和6年度 特別養護老人ホーム津田の里ユニット 事業報告

1. 事業方針

法人理念に基づいた施設サービスの質の向上に努め、定期的または必要に応じて、個別サービスの見直しを行い、支援を受けながら自己決定できるように、各部門及び各職種が連携を取りながら「その人らしく」あり続けるための施設サービスを心がける。

2. 介護部門（新館 ユニット型個室）

（1）ご入居者一人ひとりの生活リズムに合わせた個別ケアの実施

個別の24時間シートをタイムリーに更新し活用することにより、スタッフが、他ユニットにフォローに入る時にも、統一したケアが実施できました。

（2）ご入居者、ご家族の意向の把握・情報共有

面会や電話、毎月の手紙で日頃の様子をお伝えし、ご家族との情報共有に努めた。また、ご意見、ご要望については、各ユニットで周知し、必要に応じて関係部署とも連携を図り、速やかに対応し信頼関係の構築に努めました。

（3）季節を感じられ五感を刺激出来る行事や、クラブ活動の開催

行事（花見・鯉のぼり・花火鑑賞・コスモス観賞）にご家族も参加していただき大変喜ばれました。

毎月、趣味や趣向に合わせたクラブ活動（塗り絵、習字、体操）を開催し、楽しみのある暮らしの提供に努めました。

（4）機能低下の予防と心身の活性化

機能訓練士と連携しながら、ベッドや車いす上の姿勢を補正し、褥瘡や拘縮予防に努めた。また、安全なケアの周知徹底に努めました。

一日一回は離床の機会を設け、身体機能の維持と心身の活性化に努めました。

（5）専門職としての知識や技術の向上

専門職が講師となり、糖尿病や感染症、移乗介助の勉強会を実施しました。また、虐待防止の取り組みとして、アンケートや他部署による評価を行い、不適切なケアの改善に努めました。

（6）エルダー制度を活用して人材育成と定着を図る。

正規介護職員1名の入職あり、副主任以上がエルダーとなって指導を行い定期的に面談を行い、本人のペースに合わせた育成を行いました。

（7）職員間の情報共有と連携を図る

毎月ユニット会やリーダー会を開催し、職員間の情報共有を図り、統一したケアを行うよう努めました。また、必要に応じて多職種にも参加してもらい連携を図りました。

令和6年度 津田の里 施設外研修・会議

日時	研修・会議名	参加者
4/24	各種加算を正しく理解！きちんと取得！トリプル改定セミナー	石川管理栄養士
5/22	第64回地域医療勉強会「誤嚥性肺炎を知るものは誤嚥性肺炎を制す」	石橋看護師
6/5・12・19・26	介護施設における安全対策担当者養成研修（Eラーニング形式）	古澤生活相談員
6/7	スタッフのためにできること～デジタル化による課題改善への取り組み～	菅施設長・濱崎施設課長・清水主任事務員・川島副主任介護員
6/13	令和6年度算定基礎届事務講習会	杉原事務員
6/18	病院ではない看取りケア“医療的な関わり”をどこまで行うか	倉谷主任看護師
6/24～26	応急手当普及員講習	阪本副主任介護員
7/19	褥瘡対策WEBセミナー「おむつの上手な使い方」	角由華里介護員
7/22	2024サマーチャレンジボランティア事前研修	須貝生活相談員
7/23	令和6年度第1回「介護の出前授業」コアメンバー会議	菅施設長・須貝生活相談員
8/23	令和6年度第1回松江市介護保険事業者集団指導	菅施設長
5/22～24・8/29	令和6年度権利擁護推進員養成研修	大廻副主任介護員
9/12	福祉用具のチカラ！ノーリフティングケアで現場は変わる～入浴・排泄編～	福田機能訓練指導員
9/20	第55回中国地区老人福祉施設研修大会	濱崎施設課長・村井主任介護員
9/24	令和6年度第1回「介護の出前授業」コンシェルジュ全体会	須貝生活相談員
10/19	移乗セミナーI 島根2024～スライディングシート・ボードを利用して～	石飛機能訓練指導員
10/20	第13回島根県在宅褥瘡セミナー	倉谷主任看護師
7/10～12・17～19・8/21・10/31	令和6年度島根県認知症介護実践研修「実践リーダー研修」	濱崎施設課長
7/5～6・9/5・11/1～2	令和6年度コミュニティソーシャルワーク実践基礎研修	古澤生活相談員
11/5	科学的介護情報システム（LIFE）第1回説明会	清水主任事務員・安達管理栄養士・石飛機能訓練指導員
11/9	第18回地域医療従事者スキルアップセミナー	石橋看護師
12/4	令和6年度「メンタルヘルス研修 管理職コース」	濱崎施設課長
1/16	2024年度高齢者施設懇談会	濱崎施設課長・石川管理栄養士・石飛機能訓練指導員
2/7	大規模修繕をどう乗り切るか コストと人の問題解決のためのニュークックチルとは？	安達管理栄養士・石川管理栄養士
2/10	つだんだん会「皮膚・創傷ケアについて学ぼう！」	菅施設長・浜崎看護師・古澤生活相談員・石飛機能訓練指導員
2/28	施設における感染症対策研修	菅施設長・濱崎施設課長
3/14	科学的介護情報システム（LIFE）第2回説明会	清水主任事務員・安達管理栄養士・石飛機能訓練指導員
3/24	令和6年度原子力災害時の社会福祉施設等の避難対策研修会	菅施設長

令和6年度 津田の里ユニット 施設外研修・会議

日時	研修・会議名	参加者
6/21	応急手当普及員再講習	川島副主任介護員

令和6年度研修・実習等受入状況

本館

なし

新館

日付	依頼先	摘要
8/5～8/6	松江東高等学校（夏休み介護の職場（仕事）体験事業）	2名

その他

日付	依頼先	摘要
7/31	公益社団法人島根県看護協会 （令和6年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル総合演習Ⅱ）	1名
8/19～8/20	松江市ボランティアセンター（2024サマーチャレンジボランティア）	1名

令和6年度 事故集計

○令和6年度事故報告書・・・14件（-10）

	本館			新館		
	R5年度	R6年度	増減	R5年度	R6年度	増減
転落	4	2	-2	0	0	0
転倒	2	3	1	4	0	-4
切り傷	0	0	0	0	0	0
内出血	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	0
骨折	1	2	1	0	0	0
表皮剥離	1	0	-1	1	0	-1
火傷	0	0	0	0	0	0
誤嚥	0	0	0	0	0	0
異食	0	0	0	0	0	0
在宅酸素	0	0	0	0	0	0
行方不明	0	0	0	0	0	0
服薬管理	0	0	0	1	1	0
誤薬	0	0	0	0	1	1
義歯管理	0	0	0	0	0	0
紛失	1	0	-1	0	0	0
破損	2	2	0	4	3	-1
注入管理	0	0	0	0	0	0
注射管理	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
未選択	2	0	-2	1	0	-1
合計	13	9	-4	11	5	-6
1.マニュアル・ケア手順						
* 予見可能	11	9	-2	10	5	-5
* 予見不可能	0	0	0	0	0	0
2.福祉用具	2	0	-2	1	0	-1
3.環境	0	0	0	0	0	0
4.利用者・家族	0	0	0	0	0	0
5.その他	0	0	0	0	0	0
合計	13	9	-4	11	5	-6

○行政機関への報告・・・2件（-3） ○保険対応・・・・・・・・・・10件（+3）

◇骨折2件

◇障害保険6件

◇動産に対する保険4件

令和6年度 ヒヤリ集計

○令和6年度ヒヤリ報告書・・・ 129件（－6）

	本館			新館		
	R5年度	R6年度	増減	R5年度	R6年度	増減
転落	6	15	9	2	5	3
転倒	5	6	1	3	7	4
切り傷	2	0	-2	0	0	0
内出血	5	0	-5	3	0	-3
打撲	2	0	-2	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0
表皮剥離	9	3	-6	1	3	2
火傷	0	0	0	0	0	0
誤嚥	0	0	0	0	0	0
異食	3	4	1	0	2	2
在宅酸素	0	0	0	1	0	-1
行方不明	0	0	0	0	0	0
服薬管理	25	29	4	8	7	-1
誤薬	1	2	1	0	0	0
義歯管理	0	2	2	0	0	0
紛失	1	1	0	0	0	0
破損	4	2	-2	0	1	1
注入管理	0	3	3	0	2	2
注射管理	0	0	0	0	0	0
その他	36	24	-12	17	8	-9
未選択	1	2	1	0	1	1
合計	100	93	-7	35	36	1
1.マニュアル・ケア手順						
* 予見可能	93	72	-21	33	28	-5
* 予見不可能	6	12	6	2	2	0
2.福祉用具	0	0	0	0	0	0
3.環境	0	2	2	0	0	0
4.利用者・家族	0	5	5	0	0	0
5.その他	0	1	1	0	3	3
未選択	1	1	0	0	3	3
合計	100	93	-7	35	36	1

令和6年度 ボランティア一覧

No	活動内容	団体・個人名	備 考
1	洗濯物収納、ウエス・牛乳パック切り	堀内 節子 様	火曜日
2	//	本田 富貴子様	
3	//	岡田 幸子 様	木曜日
4	//	内田 佳津子様	
5	//	國政 工美子様	土曜日
6	//	片桐 和子 様	
7	//	濱 弘子 様	
8	合 唱	代表 菊池喜代子様	コールブルー
9	抹茶会補助	代表 森脇昌子様	松江更生保護女性会
10	ウエス切り	代表 澤 三鈴様	NTTわかば会
11	習字、写経	平野 吉郎 様	
12	ハンドマッサージ	西村 郁子 様	
13	塗り絵	松尾 美津江様	

計 52名

令和6年度 津田居宅介護支援センター事業報告

新規依頼は、介護24件、要支援18件、事業対象者2件の依頼を受けました。受け入れをお断りしたケースが12件ありました。要介護認定が出ている方についてはすべて受け入れ調整しておりますが、申請中の方（4件）や要支援の方（8件）は日程調整ができずお断りしたケースもあります。

近年、緊急で施設入居を希望されるご家族、ご利用者が増え、緊急対応も増えています。事前に提案はしますが、状態の変化がないと動きが取れないのも現状です。職員の欠員により特定事業所加算が算定できない月もあり減収となりました。受け持ち人数をできる限り増やししながら、質の良いケアマネジメントを行ってまいります。

地域貢献できるよう今後も地域の方との交流、公民館活動への参加など実施したいと考えます。

居宅介護支援センター 研修・会議参加報告

日 付	会議・研修名	場所	参加者名
R06. 5. 15	救急法	法人	持田・山田
R06. 5. 17	松江市事例検討会	福祉センター	山田
R06. 5. 23	BCPセミナー	Zoom（相談室）	吉田
R06. 7. 25	糖尿病対応力向上セミナー	Zoom（相談室）	山田
R06. 7. 16	口腔機能に関する知識と取り組み	Ds サイン西津田	土江
R06. 8. 02	多職種連携会議	記念病院	吉田・土江
R06. 8. 22	誤嚥性肺炎を考える	Zoom（相談室）	山田
R06. 8. 23	BCP（集団指導）	Zoom（相談室）	持田
R06. 9. 03	R6年度モチベーション研修	いきいきプラザ	山田
R06. 10. 24	ブロック連絡会	福祉センター	持田・山田
R06. 11. 13	松江市におけるヤングケアラーの現状	いきいきプラザ	持田
R06. 11. 13	認知症の方の行動心理症状を考える	松江日赤	持田
R06. 11. 25	高齢者見守りネットワーク「消費生活研修」	市民活動センター	吉田・山田
R06. 11. 22	社会福祉大会	県民会館	吉田・山田
R06. 12. 06	多職種連携会議	記念病院	土江
R06. 12. 06	高齢者虐待の防止にかかる研修	Zoom（相談室）	土江
R06. 12. 13	個別地域ケア会議介護支援専門員研修会	Zoom（在宅会議室）	持田・山田
R07. 01. 17	介護予防研修会	ホテル白鳥	持田

R07. 01. 29	若年性認知症について連絡会	福祉センター	土江
R07. 01. 31	R6 年度松江市給付適正化研修	Zoom（相談室）	持田・土江・山田
R07. 02. 10	つだんだん会	津田の里	持田
R07. 02. 12	BCP 策定後の研修及び訓練に関するセミナー	Zoom（相談室）	持田
R07. 02. 19	パーキンソン病について知ろう	松江日赤	山田
R07. 02. 21	居宅介護支援センター管理者意見交換	福祉センター	持田
R07. 03. 07	身寄りのない人の支援	いきいきプラザ	持田・土江
R07. 03. 24	管理者向け研修「ハルスメントとは？」	いきいきプラザ	持田

*毎週 1 回定例会をおこない、個々のケース報告、サービス内容の確認等行いました。

各研修参加後の報告研修

令和6年度 津田訪問介護センター 事業報告

訪問介護の新規依頼は、多数ありますが、予防支援（総合事業）の方の依頼が主で、収支バランスが合わず、お断りするケースも多いです。人材難で、訪問介護の担い手が少ない状況で、総合事業の方々のニーズに沿えない状態です。松江市が独自に進める総合事業報酬の見直しを引き継ぎ検討していただくよう働きかけています。その人らしく地域で生活できることを支えることが望まれます。

障がいサービスについては、居宅介護、同行援護と新規利用者の受け入れは行っておりますが、精神障害のケースも多く、職員個々のスキルが求められます。今後も職員育成、緊急時の対応などの周知、研修を行い研鑽に努めたいと考えます。

毎日の暮らしが安心して安全に行えるよう訪問時の早期発見、気づきを担当ケアマネや相談支援事業所へ報告し連携することで、日々の暮らしの修正や提案ができたと思われれます。

また、ICT化を進め、少しずつですが、事務時間の縮小、職員への回覧、事前の情報収集もタイムリーに行えるようになりました。

令和6年度・訪問介護センター 会議、研修会参加

日付	研修名	場所	参加者
R6.4.09	ミーティング(ケースアセスメント、マナーアップ自己評価)	ヘルパー事務所	ヘルパー6名
R6.5.28	ミーティング(ケースアセスメント、職員倫理規定、法令遵守、研修)	"	ヘルパー7名
R6.06.25	ミーティング(ケースアセスメント、マナーアップ自己評価の総評、虐待防止研修)	"	ヘルパー6名
R6.07.18	ミーティング(ケースアセスメント、認知症研修)		ヘルパー6名
R6.08.19	ミーティング(ケースアセスメント、介護技術、伝達研修)		ヘルパー6名
R6.10.28	ミーティング(ケースアセスメント、感染症、食中毒研修)		ヘルパー5名
R6.12.12	ミーティング(ケースアセスメント、事故防止研修)		ヘルパー6名
R7.02.26	感染症の観点から集合ミーティング無し 議事録回覧(ケースアセスメント、感染症、食中毒研修)	議事録回覧	ヘルパー8名
R7.03.26	ミーティング(ケースアセスメント、救急法研修)	ヘルパー事務所	ヘルパー7名

令和6年度 津田訪問介護センター 実習生受け入れ状況

学校法人みどり学園 大阪健康福祉短期大学
期間：R06.11.25～11.29（5日間）1名

令和6年度 有償ヘルパー事業報告（案）

有償サービス事業での人材は確保しておりませんので、ご希望時対応しております。介護保険のルール内で行えないサービスを有償で依頼されるケースが主です。受診介助同行や掃除、嗜好品の買い物同行等。年間通し利益は少ないですが、生活する中でご希望や楽しみが増えるよう継続いたします。当事業所を利用されている方限定でしたが、来年度からは、ご希望者にサービス提供できるようにいたします。

令和6年度 津田の里駐車場貸付 事業報告

1. 事業方針

社会福祉法人松豊会が運営する社会福祉事業に支障がない限り、その収益を社会福祉事業または、公益事業の運営に充てることを目的とする。

2. 事業報告

8区間の内、6区間を地域の方に貸付しました。収益については、年度末に社会福祉事業の津田の里に繰り入れ、次年度からの運営に充てます。